

2 家畜衛生対策事業

(1) 監視・危機管理体制整備対策事業

ア 家畜伝染病防疫対応強化

飼養衛生管理の向上を図るため、会議・研修会を開催し、また、農場を巡回し衛生管理指導を実施した。

実施内容	開催回数	出席人数	備 考
地域推進会議	3	127	市町、農協、獣医師、家畜人工授精師
口蹄疫・鳥インフルエンザ 対策連絡会議	7	249	市町、警察、JA、県関係機関
衛生管理指導	10	—	大規模肉用牛農家

イ 家畜衛生関連情報収集体制整備

畜産農家からの情報や病性鑑定成績等を基に、家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の情報を収集・分析し報告及び農家への情報提供をした。

実施内容	実施件数	備 考
情報の収集	481 (件)	家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の情報の収集
家畜衛生情報提供	12 (回)	家畜衛生に関する対策及び疾病の発生状況等の報告

ウ 診断予防技術向上対策

近年問題となっている家畜の伝染性疾病の迅速診断法の開発を進めるために必要な調査、検査を実施した。

疾病名	畜種	実施戸数	検体数	実 施 内 容
牛ウイルス性下痢・ 粘膜病	牛	4	25	抗体保有状況調査、抗原検査、疫学調査

エ まん延防止円滑化対策

オーエスキー病の清浄化を推進するため、養豚農家、市町担当者、農協等職員、開業獣医師等を対象に会議を開催した。

疾病名	回数	出席人数	実 施 内 容
オーエスキー病	1	37	栃木県豚オーエスキー病対策実施要領に基づく防疫措置

オ 動物由来感染症監視体制整備

豚レンサ球菌症の正確な診断と監視体制整備のため、保菌状況を調査した。

疾病名	戸数	頭数	実 施 内 容
豚レンサ球菌症	13	16	PCR 検査で菌種を確認

(2) 慢性疾病等生産性阻害疾病対策

生産性阻害が顕著な農場に対し、生産性を阻害する疾病群について、調査・検査を行い、発生動向を把握、得られた成績をもとに、対策を検討するとともに、疾病防疫マニュアル作成の基礎とする。

疾病名	畜種	調査戸数	調査頭羽数	実施内容
豚繁殖・呼吸障害症候群	豚	1	3,000	定期的な抗体検査を行い、畜舎環境の改善点を明らかにし、豚舎の洗浄・消毒を指導。また、空舎期間の設定、ピッグフローの改善及び密飼いの防止を指導。
外部寄生虫症(ワクモ)	鶏	1	15,000	ワクモの薬物を使用しない駆除法として、段ボール片の設置・交換の方法を検討したところ、鶏舎内のワクモの減数が図られた。

(3) 畜産物安全性確保対策

ア 生産衛生管理体制整備事業

畜産物の安全性の確保を図るため、生産現場にHACCP方式に基づく飼養管理方式を導入するために必要な検査、指導を実施した。

区分	戸数	危害因子	実施内容
養豚農家	4	抗菌性物質の残留を設定	定期的に各農場の作業分析シート、危害因子及び作業工程の記録について指導するとともに、関係者を集めた推進会議(4回)を実施した。

イ 動物用医薬品危機管理対策

(ア) 動物用医薬品の品質検査・指導

流通段階にある不適正な動物用医薬品を排除し動物用医薬品の品質確保を図るため、動物用医薬品等販売業者への立入検査・指導、医薬品の収去・品質確保検査を実施した。

販売業者店舗数	立入検査・指導		品質確保検査
	対象店舗数	実施店舗数	
163	163	48	医薬品の収去：県央家保1品目(収去品目：パンカル注50mg) 〃 検査場所：家畜衛生研究部(県北家保収去1品目も実施) 〃 検査結果：2品目とも規格範囲内

(イ) 動物用医薬品使用実態調査

動物用医薬品の使用の規制に関する省令に基づく動物用医薬品の畜産物への残留防止を図るため、養豚農家 2 戸、養鶏農家 1 戸及び肉用牛飼養農家 1 戸の計 4 戸について動物用医薬品の使用状況等の実態調査を実施した。

各農家とも休薬期間を厳守し、問題はなかった。

(ウ) 薬剤耐性菌の発現状況調査

人と動物の健康に対するリスク分析の基礎資料とするために、薬剤耐性菌の発現状況について調査した。

対象菌種	対象家畜	対象農家数	検体数	菌分離陽性数	分離株数	実施内容	備考
大腸菌	肥育牛 肥育豚 採卵鶏 肉用鶏	21	21	21	40	分離した40株の大腸菌について12薬剤の薬剤感受性を検査した。	